

自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(美術)
／長岡 強

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

・ただ単に作品づくりの授業で終わることのないよう、教育大学の授業として相応しいように学校教育とどう繋がっているか思考させるような授業内容も含ませたい。
・授業は実技中心の授業として展開するが、教育実践力に結びつくようなプロセスを重視した展開を行っていきたい。

2. 点検・評価

・教科専門と教科教育の融合に力を入れながら、教育実践力を有する学生に導いた。
・学生の授業評価をみると、私の推奨する「自信をつける教育」「一人一人の感性や個性を伸ばさせる教育」は定着してきたように思う。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

①平素の授業においては、きめ細かな指導をするように心がける。学生たちが感性や個性を伸ばし、自信をつける教育を目指したい。
②学生たちが出来るだけ地元の美術展に出品していくよう支援する。このことによって、学生たちを地域の芸術文化活動に参画させたい。
③授業以外においても学生たちと積極的に関わり、進路、学生生活、悩み等について相談に応じる。

2. 点検・評価

- ・担当している授業科目において、ただ作品作りに終わることなく造形教育の根幹について理解させるように授業内容や授業方法に改善を図りながら進めた。結果として、担当授業科目全てにおいて4.5以上の授業評価を得た。
- ・ゼミ生が地元の放美展や徳島県美術展に入選、放美展で最高の賞である放美賞にも選ばれ、対外的に高い評価を得た。
あわせて、学内の学生表彰も受けた。
- ・授業以外において、多岐にわたって学生支援を行い、進路指導や採用試験対策を行った。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

研究活動の中心は彫刻制作である。
本年度も全国的規模である 6月・日彫展(日本彫刻会)、11月・日展(日本美術展覧会)等の展覧会に出品を委嘱され、東京都の新国立美術館において開催される展覧会で作品発表を行っていきたい。

2. 点検・評価

- ・今年度も東京・国立新美術館で開催される白日展、日彫展、日展において作品発表を行った。
特記事項としては、我が国最大の美術展である日展の審査員に任命され任務を遂行した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- ①連合大学院の代議員会委員、芸術系連合講座美術の代表として、4大学のまとめ役として寄与する。
- ②経営協議会委員の任務を遂行し、本学の運営に寄与する。

2. 点検・評価

- ・連合大学院の代議委員として、また芸術系連合講座美術の代表として、4大学をまとめた。教員の資格審査、認定試験、博士論文の審査等に携わった。
- ・学内では、経営協議会委員として任務を遂行した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①附属学校の研究会の指導助言や教育支援アドバイザーの派遣要請があれば応じる。(附属学校・社会との連携)
- ②地元の美術展への出品依頼があれば, 積極的に受け入れて出品し, 社会との連携に努める。(社会貢献)
- ③留学生の受け入れ要請があれば引き受け, 国際協力事業等に努める。(国際交流)

2. 点検・評価

- ・附属小学校 図画工作担当教諭二名と連携を取りながら, 図画工作教材について研究を深めた。今年度は, 教育支援アドバイザーの派遣要請は無かった。
- ・社会貢献としては, 地元の美術展である放美展や徳島県美術展への出品依頼を受け出品した。我が国最大規模の日展会場において, 作品解説を行った。
- ・外国人留学生に対して, 彫刻の授業を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

創立30周年記念モニュメントを, 施設課のスタッフの協力を得ながら設置することが出来た。